

定期演奏会に向けた最後のアンフォーレ公開練習を行いました

安城市民会館サルビアホールで12月25日(土)に行う第7回定期演奏会に向けて、12月18日(土)・19日(日)に最後のアンフォーレ公開練習を実施しました。この後、24日(金)に市民会館で前日の練習を行い、当日の本番を控えます。団員やスタッフの日頃の成果を、市民会館でご確認ください。



演奏会当日の注意事項等について

第7回定期演奏会でも、過去のコロナ禍における開催同様、新型コロナウイルス感染症の感染防止のためご来場されるすべてのお客様に感染症対策のご協力をお願いします。入場時の検温・アルコールによる手指の消毒、会場内での会話のお控え、マスクによる咳エチケット、社会的距離の確保、花束等のプレゼントの預かり中止等にご協力ください。客席では、お連れ様であっても隣り合わないよう座席間隔を設定しています。

入場はチケットA(13時)・B(13時30分)の記号順、そして退出時も着席場所の順にご案内します。会場内は入退場時の一方通行など規制もありますがご理解ください。

当日お手伝いいただけるサポーターの方へ



すでに連絡済みの方もみえるかもしれませんが、12月25日(土)の第7回定期演奏会でお手伝いいただける方は、11時50分に市民会館ロビーにお集まりいただきます。当日、入退場の段取りや注意事項を説明し、来場者を迎えていただきます。スタッフ一丸となって、定期演奏会を成功させたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



Message

第7回定期演奏会で演奏する チャイコフスキーの序曲「1812年」について

副代表 鈴木俊也

今回の演奏会で演奏するチャイコフスキーの序曲「1812年」。私も中学生の頃から大好きな曲で、大学生の時に初めて演奏することができた思い出の曲です。

ご存じの方がほとんどだと思いますが、1812年とはナポレオンがロシア遠征をおこなって失敗した年で、この曲はその史実を題材にしています。じつは、チャイコフスキー自身は依頼され仕方なく書いた曲で、あまり気に入っていなかったようです。ロシア正教会の賛美歌や教会の鐘の音、ロシア民謡やフランス国家「ラ・マルセイユーズ」など、とても世俗的な題材を中心としているからかもしれません。

しかし、そこはさすがのチャイコフスキー。それらの題材を見事に料理し、素晴らしい曲として仕立て上げています。とても馴染みやすい題材をどのように曲として作り上げているか、ぜひ注意して聴いていただきたいです。

曲の後半には、スコアに大砲(キャノン砲)を使うように指示があります。チャイコフスキーの生存中に実際に大砲を使った演奏がされたかどうか正確な記録がなくて分かりませんが、コンサートでは大太鼓で代用したり、屋外演奏では軍隊の協力で本物の大砲を使ったりします。

今回の演奏では、さらに曲の最後にバンダが入ります。

バンダとは、本来のオーケストラとは別に、増援部隊として参加するバンドのことで、おもに金管楽器を増強して迫力を増すために使用されます。安城学園の生徒さんによるバンダもお楽しみにしてください。



第8回定期演奏会開催のご案内

【公演概要】

日時：2022年7月10日(日) 開場：14:00～ 開演：15:00～

会場：安城市民会館サルビアホール

料金：一般2,000円、小・中・高生1,000円

演奏曲：交響曲 第1番/ベートーヴェン ほか

※詳細はホームページでお知らせします

●あんきょうPressは関係者に向けた会報誌ですが、一般の方に読んでいただくのも歓迎です。印刷はしていませんので、メールやSNS等で日常のお仲間の方にも展開いただくと幸いです。

●次回の発行は、2022年1月頃になる予定です。

安城市交響楽団公式ホームページ

